

報道関係者各位

Royal Enfield
2024年2月13日

【訂正】ロイヤルエンフィールド、「SHOTGUN 650」を発表

カスタムシーンにインスパイアされたモーターサイクル

- ・ SHOTGUN 650（ショットガン・ロクゴーマル）は、多様化するカスタムカルチャーとロイヤルエンフィールドのDNAをミックスし、創造的なエネルギーから生まれた個性的なモーターサイクルです。パーソナライゼーションのための究極のキャンバスとなります。
- ・ 街中では遊び心のあるシティ・モーターサイクルに、郊外では安定したハイウェイ・マシンに。SHOTGUN 650は難なく変身することができます。
- ・ SHOTGUN 650は、定評ある648cc並列2気筒エンジンを核として、モダンなインスピレーションとエレメントを融合させた、ロイヤルエンフィールドに対する現代的な解釈を生み出すモーターサイクルです。
- ・ **日本での発売は2024年8月を予定しています（当初6月と発表しておりましたが訂正します）。**



ROYAL ENFIELD

2023年12月12日：毎年11月にインド・ゴアで開催するイベント“Motoverse 2023(モトバース)”で特別限定モデル SHOTGUN 650 Motoverse Edition を華々しくデビューさせたロイヤルエンフィールドは、本日、SHOTGUN 650 の市販モデルを発表しました。カスタムシーンにインスパイアされた唯一無二の魅力的な新型 SHOTGUN 650 は、ステンシル・ホワイト、プラズマ・ブルー、グリーン・ドリル、シートメタル・グレーの4カラーを展開します。新型 SHOTGUN 650 は、2024年に世界市場で発売する予定です。

このモーターサイクルについて、アイシャーマーターズ・リミテッドのマネージング・ディレクター兼 CEO である Siddhartha Lal (シッダールタ・ラル) は、次のようにコメントしています。

「SHOTGUN 650 は、カスタム・コミュニティと長年関係を築いてきたロイヤルエンフィールドの DNA を受け継ぎ、ファクトリーカスタム・モーターサイクルとはどのようなものであるべきか？ それを未来的な視点から解釈したモデルです。既存のモデルカテゴリーに分類されることを拒み、フォルムもスピリットも新しく構築しました。人間工学に基づいた車体設計によって、市街地でも、ツイスティなワインディングでも、ストレートな高速道路でも、優れたハンドリングを発揮します。そんな SHOTGUN 650 の発売は、ニッチで新しいカテゴリーのモーターサイクルを、成長するエンスージアストたちに届けようという、我々の挑戦なのです」

世界的に実績のある 650 ツイン・エンジンを採用した SHOTGUN 650 は、ロイヤルエンフィールドのデザインにおける新しいチャプターであり、エキサイティングな未来像でもあります。そのレトロフューチャリスティックなデザインは、ロイヤルエンフィールドが EICMA (ミラノ・モーターサイクルショー) 2021 で発表したコンセプトモデル「SG650 CONCEPT」へのオマージュであり、世界中のライダーが“カスタム”というパーソナライゼーションをイメージしやすい、真っ白なキャンバスの役割を果たします。

その新型車の心臓部であるエンジンについて、ロイヤルエンフィールドの CEO、B Govindarajan (B・ゴビンダラジャン) は、次のように述べています。

「SHOTGUN 650 は、私たちのポートフォリオの中でも非常にユニークなモーターサイクルですが、その心臓部には、ロイヤルエンフィールドの純粋な DNA を受け継ぎました。648cc 並列 2 気筒エンジンは個性的で汎用性の高いプラットフォームであり、どのようなスタイルの

ROYAL ENFIELD

モーターサイクルにも適応することができます。このエンジンは力強い低回転域、そして全域に渡って感じる事ができる豊かなトルクを備え、魅力的で爽快な走りを実現します」

ロイヤルエンフィールドは、外装類のほとんどを金属製パーツで揃え、それらを加工しやすく、ゆえにカスタマイズの代名詞となりました。歴代モデルはどれもユニークで、豊かで感動的な物語を持ち、こうしたストーリーはカスタムビルダーのイマジネーションを刺激し、その物語はカスタムコミュニティによって語り継がれてきました。EICMA 2021 でロイヤルエンフィールドが発表したコンセプトモデル「SG650 CONCEPT」が、世界のモーターサイクル・コミュニティから大きな反響を得たことで、ロイヤルエンフィールドはその市販バージョンの開発に乗り出すことになりました。

SHOTGUN 650 の新しい構成パーツとそれによって生まれたキャラクターは、従来のモーターサイクルの分類を覆し、ライダーの個性に合わせて変化させることが出来ます。特に個性的なのはシート周りです。モジュラー設計により、1人乗り、2人乗り、ケース装着などによるツアラー仕様と、3つの仕様を簡単に切り替えることができ、究極のフレキシビリティを提供します。スポーティでアグレッシブなライディングを求めるライダーにも、ゆったりとしたライディングを楽しみたいライダーにも、SHOTGUN 650 は、その時の気分やライディングスタイルに合わせて変化させられるのです。

SHOTGUN 650 のデザインと開発の道のりについて、**デザインチーフの Mark Wells (マーク・ウェルズ)** は次のように述べています。

「何十年もの間、ロイヤルエンフィールドの各モデルは、お客様によってカスタマイズされてきました。その豊かな創造的文化にインスピレーションを受け、私たちは制限を取り払い、イマジネーションを解き放ったデザイナーたち、そして設計者たちとディスカッションを重ねました。こうして出来上がったSHOTGUN 650のデザインは、斬新でありながら私たちの伝統を尊重しており、ロイヤルエンフィールドの未来像も表現しています」

世界各地で様々な賞を受賞した 650 ツインエンジンを中核とする SHOTGUN 650 は、2気筒モデルならではの楽しさを満載しています。人間工学に基づき最適化した、ミッドコントロールと呼ぶライダーに近いステップポジション、795mmの低いシート高、そして自然な位置にあるハンドルは、ライダーに安心感とともに、高いコントロール性を与えます。フロントサスペンションには減衰力機能とスプリング機能を左右のフォークに分けた SHOWA φ 43mmSFF-BP を、リアにツインチューブ 5 段プリロード調整式リアショックユニットを採

ROYAL ENFIELD

用。ともにサスペンションの長さもその特性も、専用にチューニングを施しました。またフロント 18 インチ、リア 17 インチのチューブレスタイヤを装着したことにくわえ、前後サスペンションを変更したことによるアライメントや車体姿勢の変更などによって、快適性を損なうことなく、高速走行時の安定感を維持しながら、街中やワインディングでもライディングを楽しむことができます。

車体デザインにおいては、レトロフューチャー・デザインと現代的な機能を融合しました。ヘッドライトとメーターを備える“ナセル”と呼ばれるライト周りの装飾はロイヤルエンフィールドの象徴的なディテールですが、SHOTGUN 650 ではそのナセルを現代的に解釈。フロントフォークを支える上下三つ又と連携したラインを持つ、宙に浮いたようなデザインのモダンなナセルに LED ヘッドライトをセット。視認性を向上させています。

また矢印で進行方向を知らせるナビゲーションシステム「Tripper ナビゲーション・システム」を搭載。スピードメーターの脇に装備した、小型のデジタルディスプレイがその機能を表示します。また USB ポートも装備しており、外出先でもデバイスの充電が可能です。

SHOTGUN 650 には 31 種類の純正アクセサリを用意しました。SHOTGUN 650 の魅力をさらに際立たせるようデザインした、バーエンドミラー、ソロシート、切削加工を施したビレットリムなどバリエーション豊かなパーツを揃えました。また SHOTGUN 650 のスピリットを補完するために、スタイリッシュなアパレルもラインナップしました。

そのアパレルラインには、アメリカのアパレルメーカーであり、世界有数のストリートベースのモーターサイクル用プロテクションアパレルブランドである「ICON Motorsports」と提携したライディングギアもラインナップします。詳細は後日発表しますが、これは 2 つのブランドによるエキサイティングなグローバル・コラボレーションが始まります。

#SHOTGUN650 #ByCustomsForCustom

ROYAL ENFIELD

<ロイヤルエンフィールド社について>

ロイヤルエンフィールドは、1901年の創業以来、美しいオートバイを作り続けている最も古いモーターサイクルブランドです。イギリスにルーツを持ちますが、1955年にインド・マドラスに製造工場が設立され、これを足がかりにインドの中型二輪車セグメントの成長を先導してきました。ロイヤルエンフィールドでは、「Pure Motorcycling（ピュア・モーターサイクリング）」と呼ばれるアプローチの下に、魅力的で、シンプルで、親しみやすく、乗るのが楽しい、探検と自己表現のための乗り物を作ってきました。

ロイヤルエンフィールドのプレミアムラインナップには、クルーザーの「Meteor 350(メテオ 350)」、650 パラレルツインモーターサイクルの「Super Meteor 650(スーパー・メテオ・ロクゴーマル)」、「INT650(アイエヌティ・ロクゴーマル)」、「Continental GT650(コンチネンタル・ジューティー・ロクゴーマル)」、アドベンチャー・モーターサイクルでは新型「Himalayan(ヒマラヤ)」アドベンチャー・ツアラー、「Scram 411(スクラム・ヨンイチイチ)」アドベンチャー・クロスオーバー、アイコンックな「Bullet 350(ブリット・サンゴーマル)」、「Classic 350(クラシック・サンゴーマル)」などがあります。ライダーと情熱的なコミュニティは、地元、地域、そして国際レベルでの豊富なイベントによって育まれています。特に、毎年ゴアで開催される何千人ものロイヤルエンフィールド愛好家が集まる「Motoverse (旧 Rider Mania)」や、最も過酷な地形と最高峰の峠を越える巡礼の旅「Himalayan Odyssey」が有名です。

Eicher Motors Limited (アイシャーモーターズ・リミテッド) の一部門であるロイヤルエンフィールドは、インドの主要都市に2000以上の店舗、世界60カ国以上に850以上の店舗を展開しています。イギリスのブランディングソープとインドのチェンナイの2箇所にテクニカルセンターと呼ぶ先進的な開発部門を持ち、チェンナイ近郊のオラガダムとヴァラムヴァダガルに2つの最新鋭の生産施設があります。世界では、ネパール、ブラジル、タイ、アルゼンチン、コロンビアの5ヶ所に最新のCKD (コンプリート・ノックダウン：製造国から車両すべての部品を輸入し、現地で組み立てて完成車とする方法) 組立施設を有しています。

ロイヤルエンフィールドのブランドやモーターサイクルに関する詳細は、下記公式ウェブサイトをご覧ください。

<https://www.royalfield-tokyoshowroom.jp/>

ROYAL ENFIELD

車両の画像は以下をご参照ください：

https://drive.google.com/drive/folders/1cVy5ZAi08L1hzWC83G7i1JIn0ic_2ID8?usp=sharing

【製品に関するお問い合わせ先】

ピーシーアイ株式会社（ロイヤルエンフィールド正規輸入販売元）

E-mail: press@pci-ltd.jp

【報道関係者のお問い合わせ先】

ポーリクロム株式会社

Tel. 03-6822-4666

E-mail : re_jp_pr@polychrome.co.jp